

1 学校経営の基本理念

(1) 豊かな人間性の育成

東京都並びに練馬区の教育目標、教育指導課の主要施策に基づき、北町西小学校の教育目標を具現化し、子供一人一人が「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな子供の育成を目指す。

(2) 地域とともに歩む学校

保護者・地域の方々の思いや願いを正しく受け止め、地域のよさを学び、地域とともに歩む学校づくりを行うため、学校、地域、保護者が協力して北町西小学校の子供のために全力で教育活動に取り組む。

(3) 協働し組織的に対応する学校

「すべての教師がすべての子供の担任」として、職員全員が協働し統一された教育活動を丁寧に積み重ねることにより、基本的な生活習慣、学習習慣の定着図り、「生きる力」を確実に育む。

2 目指す学校像（長期目標）

- ・今日が楽しく明日が待たれる学校
- ・子供のよさを見つけ、可能性を伸ばす学校
- ・子供の安全が確保され、安心して過ごせる学校
- ・内にも外にも開かれた学校として、保護者、地域と連携し、地域住民に信頼される学校
- ・職員の持てる力を結集し、組織力を発揮できる学校

3 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、自立的精神にみちた健全な人間の育成、日本の文化と伝統を尊重し、国際社会に貢献する日本人の育成、生涯にわたり、自らをみがき心豊かにたくましく生きる人間の育成を目指し、次の子供像を掲げてその育成に努める。 ※◎が重点目標

◎自らをみがき学び合う子

（人の話をよく聞き、自分の考えを発表できる子、基礎基本の学力が定着している子）

○思いやりがあり助け合う子

（みんなと仲良く協力する子、挨拶ができルールを守る子）

○心と体をきたえやりぬく子

（体力のある子、集中力があり最後までやり抜く子）

4 目指す教師（教職員）像

子供にとって最も影響ある教育環境は、教師自身である。行動基準は「子供の幸せと成長のために」

(1) 子供、保護者に正対し、決して逃げない愛情ある教師

- ・全ての児童、保護者の心根に寄り添い、心のひだ一つ一つにまで共感し背景を看取ろうとする教師

(2) 心身共に健康で、率先垂範、プラス思考で努力する教師

- ・教育に情熱を燃やし笑顔が絶えない教師

(3) 子供に学び、子供と遊び、子供とともに成長する教師

- ・人権感覚を磨き、人としてのぬくもりを感じさせる教師
- ・時間を守る（授業の始まり、終わり 特に中休み前後）約束を守る 素直に謝る教師

(4) 自己のキャリアアップを追究する教師

- ・後輩の資質向上に親身に寄り添い、将来のために言いにくいことでも毅然と指導できる教師

(5) 礼儀正しく、公務員・社会人としての常識を備えた教職員

- ・礼儀正しい挨拶・接遇 ・笑顔でお辞儀、会釈を行う。誠実な電話対応に心がける。（校名、名前、職名を名乗る。笑顔で話す）
- ・職務上及び身分上においても公務員であるという自覚をもつ教職員

(6) 家庭地域と連携し、児童を育てる教師

5 学校経営の基本方針（中期目標と方策） 下線は重点

(1) 北町西小学校の教師としての基本姿勢

- ・全ての教育活動を、子供の具体的な活動と変容を評価規準として、P D C Aのサイクルを基本に、日々改善していく。
- ・加点的な指導を心がけ、子供に自信と自己肯定感を育てる。
- ・子供とのふれあいに心がけ、子供の側に立った受容的な態度に努め、子供理解を深める。
- ・全ての教育活動を通して人権教育を進める。いじめ・体罰は絶対にしない、させない、見過ごさないという毅然とした態度で、いじめや偏見、差別のない温かい人間関係を醸成する。

- ・北町西小のすべての教師がすべての子供の担任として、学級、学年、専科の枠を越え、全職員が協力して、「みんなで」子供を育てる。
- ・学校が危機に直面した際は、個人に責めを負わせることなくピンチをチャンスと捉え、組織で前向きに乗り越えようという気概をもつ。
- ・教育のプロとして、自信と誇りをもって指導に当たる。子供や保護者の声には、謙虚に耳を傾け、適切な指導助言を心がける。
- ・地域、地域人材の素晴らしさを教師一人一人が理解し、地域を愛する子供を育てる。保護者・地域の方々からの協力を積極的に仰ぐとともに、すすんで地域に出向き地域行事に参加する。

(2) 学力の向上

- ・「学力アクション」をベースに楽しく学ぶ学習を全教室に展開する。
- ・国語科の指導法の研究を通して、思考力を育み、学びに向かう力を育成する。(全学年研究授業)
- ・朝学習の時間を有効に活用し、「計算力」「書く力(漢字・百マス作文)」「読む力」を繰り返し指導し確実にする。家庭学習の習慣化を図る。(学年×10分)
- ・少人数担当教員や学力向上支援講師を活用し、算数科の習熟度別・TT指導を徹底し、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・一人一台タブレットを効果的に活用した学習を工夫し、ICT教育を推進する。
- ・思考力、判断力、表現力を育てる問題解決的な学習と学び合いを通し「メタ認知」を高める。
- ・特別支援教育の手法を取り入れ、表現力の基盤となる「話す」「聞く」の力をつけていく。
- ・全ての児童の発達に照らし合わせた授業を全教科・領域において行う。
- ・各教科等や行事のねらい、安全面の配慮のもとに、週毎の指導計画を書き記録を残し指導改善を行う。
- ・授業改善推進プランに基づいたわかる授業、もっと学びたくなる授業の工夫
(めあてと発問の精選、板書構成、ノート指導、学習形態の工夫、話し合い活動の工夫)
- ・言語活動の充実として、読書旬間の設定、図書館ボランティア「りんごの会」、平和台図書館との連携を通して、読書活動を推進する。
- ・小中一貫教育に向けての活動、取組を実践する。

(3) 豊かな人間性の育成

- ・特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて子供たちの発達段階に応じた道徳教育を行う。
- ・年間指導計画に基づいて、計画的、組織的に人権尊重教育を進める。
- ・清潔で安全な学校環境を維持し、子供たちが落ち着いて生活ができるようにする。子供を支援する「3かけ」(目をかける、声をかける、手間をかける)を励行する。
- ・いじめの芽を摘み、正義と思いやりのある体罰のない学級を作る。
- ・きまりの必要性や意味を理解させ、きまりを守れる子供を育てる。気付かせ、ほめて身に付けさせる。
- ・受容(優しさ)と規律(厳しさ)のバランスを取り、感情ではなく意図的・計画的に演技者として叱る。
【叱る3基準(人権・生命・迷惑)ほめる3基準(努力・奉仕・実行)】
- ・学校行事や学級活動、集会を通して、所属感、達成感を味わわせる。
- ・挨拶を学校の校風に、生活規律の斉一化に努め生活指導の重点化を図る。

(4) 個に応じた教育の充実

- ・全児童対象の学習補充教室や学級学習補充教室を実施する。
- ・特支学級と通常学級との連携を密に行い、特別支援教育推進体制をつくる。
- ・学校と家庭、関係諸機関との連携を密にし、学校不応や虐待等に対して適切に対応する。
- ・児童の困り感を我が事と考え、心を寄り添わせる。
- ・その児童の特性を踏まえ個性を輝かせて学級の宝とする。

(5) 体力の向上

- ・個に照らし合わせた指導、意欲を喚起する体力アクションを行う。
- ・外遊びと集団遊びを奨励する。天気の良い日の外遊びを奨励し、学級遊びや学年遊び、縦割り遊び等、集団遊びを増やし、教師もできるだけ一緒に遊ぶ。
- ・体育科の各領域での目標と内容を十分に理解した指導を実施する。その際、運動量を意識して授業を組み立て、毎時間汗をかくことができるような授業の展開に努める。
- ・安全教育を通して、自ら危険を回避する力を培う。
- ・体力向上旬間の設定や子供が日常的に行う指導を工夫する。
- ・生活リズムを定着と食育指導の充実を通して心と体の健康づくりを進める。【早寝、早起き、朝ご飯】
- ・オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを継続し、バリアフリーやSDGsの視点を取り入れた年間指導計画を作成し、実践する。

(6) 内に外に開かれた学校づくりの推進

- ・地域の歴史、よさを理解し、地域と能動的に関わる。
- ・学校評価を組織的、定期的に行い、改善策を広く公表して具現化し期待に応える教育を推進する。
- ・学校地域連携事業推進校として、地域・保護者との連携し取り組む。
- ・学校だより、学年だより、学級だより、学校HP等、情報発信の充実を図る。

(7) 教職員一人一人が参画する学校運営

- ・校務分掌について、従前の方法や計画を更に改善、変更することを常に考える。
- ・前向きな思考で企画・提案は、すすんで管理職に具申する。
- ・管理職への報告、連絡、相談を密にする。
- ・経営方針を常に意識し組織としての斉一性を意識する。(やりましょうといったことがやれる)
- ・管理職や上司に進言ができ、後輩を指導できる雰囲気醸成する。(言いにくいことが言える)
- ・担当分掌を前年度踏襲で終わらせず、一歩前へ改善しようとする。

(8) コスト意識をもった施設、教材等の活用

- ・同じ効果を上げるのに、必要最低限に抑えることはできないかと常に意識する。
- ・予算に明るく、税金を無駄にせず会計事故を起こさない。
- ・I S O (環境指針) 達成を意識する。

(9) 服務規律に満ち溢れた公務員としての資質向上

- ・公務員としての身だしなみが整い、斉一的な接遇・電話対応をする。
- ・「机上のフラット・グリーン化」により机上整備を行い、紙ベースの個人情報の保護・管理に努め、機能的・効率的な執務の向上をめざす。
- ・区学校職員服務規定に基づき、出勤簿の押印、出張の復命等、サービスを正しく行う。
- ・「ハインリッヒの法則」を理解し、日常の業務の中で服務事故予防に努める。
- ・飲酒に関わる服務事故(自動車、自転車)を起こさない。
- ・アンガーマネジメントを理解、実践し、体罰、不適切な指導をしない。

6 令和4年度の達成目標と具体的方策(全ての児童を我が子同様に接する学校の実現)

【学力の向上】(基礎基本と活用、楽しく学ぶ雰囲気の醸成)

- ・学習指導要領の趣旨(学びに向かうカーメタ認知)を理解し、個に応じた適切な目標設定と評価の実施。週ごとの指導計画にねらい・内容・指導後の振り返りを明記し指導のPDCAサイクルを構築。(毎週初めに提出、返却)
- ・「学力向上アクション」の実施(国問題の活用→教員の問題把握・4月、指導書との連動・算数、夏季休業、自作問題・夏季休業、学力グランプリ・2回、学力診断テスト)
- ・朝学習(週2回)、放課後補充教室(年間)の習熟、ベーシックドリルの効果的活用(年間)による基礎・基本の定着化
- ・タブレット等、ICT機器の効果的活用を図るためのDOJT実施(毎月1回)
- ・学校地域連携事業を中核として保護者、外部機関と連携した授業の実践
- ・全ての児童の発達に照らし合わせた授業(ユニバーサルデザイン)への意識変革

【体力の向上】

- ・体力向上旬間の設定(なわとび、持久走)
- ・体育授業における運動量の確保、多様な動きを取り入れた学習
- ・「北西ギネス」による児童の体力向上への意欲喚起
- ・中休みの外遊び、学級遊びの励行
- ・ゲストティーチャーによる体育の授業、課外スポーツの充実

【学習・生活規律の斉一的な指導】

- ・大人が模範となる挨拶の推進、「北西あいさつスタンダード」の確立 校長、日直教員による朝の挨拶指導
- ・時間を守る。(開始、終了、時間を意識した準備行動)
- ・「玄関は、学校の顔」として美化を維持する。靴を揃え、傘を持ち帰る(職員も)
- ・学習規律定着のための全校共通指導「はい・たつ・です」「声のものさし」「聞く・聴く」
- ・教室置き学習用具の管理・整頓指導

【特別支援教育の推進】

- ・校長とコーディネーター（養護教諭を中心）を組織の核とし、全教職員で児童を支援する意識の醸成
- ・専科教員の学級への支援体制の構築
- ・授業や環境のユニバーサルデザイン化
- ・子ども支援委員会の体制整備と連動した専門スタッフ、関係機関とのネットワークの構築
- ・言語障害学級教員による通常の学級へのコンサルテーション
- ・スター（特別支援教室）の円滑な運営と通常の学級への還元
- ・都 SC、ふれあい相談員等によるコンサルテーションの共有
- ・機能的な執務環境の維持 職員室の机上の（フラット化）ユニバーサルデザイン化

【豊かな人間関係の醸成】

- ・人権感覚に満ち溢れた職員室の言語環境の整備。人権教育プログラムに基づき人権感覚の指導の徹底（敬称、指導を振り返る姿勢、共感的、配慮ある作品、掲示物）
- ・相手意識をもった挨拶の指導、定着
- ・言葉の暴力の根絶、言語感覚の醸成
- ・いじめ防止対策の組織的な対応（予防の視点を盛り込んだ調査年間8回、いじめ調査結果の発信）
- ・全学年学級編成替えの実施
- ・児童個別支援、家庭支援に関する情報ファイルの一元管理

【保護者・地域との連携、保護者・地域への発信】

- ・感染症対策への周知と徹底
- ・職員の地域の歴史、地域行事への理解と参画意識の醸成
- ・学校地域連携事業推進校としての取組・実践、学校支援コーディネーターの活用（地域・保護者との連携、GTの活用等）
- ・おやじの会のさらなる支援の拡大
- ・アンケートへの誠実な返信（主要行事2回）
- ・学校ホームページの充実（毎日の掲載、夏季水泳実施の有無）のための組織、システムの構築
- ・学校便り（A3版裏表・特別支援教育コーナー等）学級通信、専科通信の発行による教育活動の発信及び保護者への啓発
- ・特別支援教育の講演等、保護者への理解啓発

【道徳、特別活動】

- ・考え、議論する道徳の時間の指導、評価、公開授業、ゲストティーチャー活用授業の実施
- ・自主・自立の姿勢を育てる話し合い活動（年間11回以上）
- ・係活動と当番活動の違いを明確にした自主的な活動の実施、学級歌の推奨

【組織・危機・環境管理、サービス・働き方】

- ・第三者機関である「いじめ防止対策サポートチーム」の定着
- ・個人情報保護ファイルによる書類の保護、管理
- ・学校給食アレルギー対応の組織化、精密化（保護者との綿密な除去計画、ケース訓練、実地的研修）
- ・「練馬区緊急メールシステム」の効果的な活用
- ・一時避難所としての地域の自主防災組織の確立に向けた働きかけ
- ・職員室のゴミ箱の一元化と適正な分別・リサイクル行動、節電の遵守、ゴミの持ち帰り
- ・区学校職員サービス規定に基づくサービス遵守の徹底
- ・「ハインリッヒの法則」に基づく学校事故、サービス事故の根絶
- ・体罰ガイドライン、アンガーマネジメントの理解、特別支援教育の資質向上（問題行動は改善の機会）による体罰、不適切な指導の根絶
- ・机上の「フラット・グリーン化」、勤務時間の自己管理（時間外勤務、週35、年320時間以内）
- ・会議の時短、C4t hによる業務（情報連携、徴収金システムの適切な運用）の効率化
- ・「ライフ&ワーク応援宣言」に基づく年休取得推進、超過勤務時間削減、男性職員の育児参加推進